



(ひかり かがやく子)

「蛍」の子

堀之内小学校だより
R 6年度 7月号
令和6年 7月2日

【重点目標】 「自分からひかる 人のためにひかる みんなとひかる」

～ “やる気” ってどうしたら出るの？～

校長室にいろいろな子が遊びに来てくれます。「土曜日、家族で〇〇に遊びに行ったよ」「今、〇〇がオシで〇〇を集めているんだ」「〇〇さんとケンカしちゃって…どうしたら良いかなあ？」など、いろいろな話をしてくれます。先日来た子が、「先生、やる気ってどうしたら出る？家に帰って勉強って、なかなかやる気が出なくて…。やる気が出るのを待ってたら、どんどんやる時間が遅くなっちゃって…」とのことでした。その時、ある脳科学者の講演会で聞いたことを思い出しました。

【やる気ではなく、システムに従え】

- ・体（行動や表情）がスイッチになる。やることで気持ちが盛り上がってくる。
- ・掃除をやり始めると段々とスイッチが入り、とことんやりたくなるのが良い例。
- ・つまり“やる気”は行動の「原因」ではなく「結果」である。
- ・やり始めない限り”やる気”は出ない。（“やる気”は後から付いてくる）
- ・だから”やる気”が起こるのを待つのではなく、勉強する時間を決めて粛々と始める。

講演の中のこのような内容を簡単な言葉で伝えました。

その後、その子は、…「勉強を始める時間を紙に書いてテレビの近くに貼ったよ。とりあえず努力中。やる気は出るときもあれば出ないときもある。でももう2週間くらいは続いているよ」とのことでした。

その講演では、次のようなお話もありました。



【結果よりもプロセスを重視する】

- ・(自分も周りも)結果よりも努力することを重視する。成績よりも勉強プロセスを重視するのが大事。「成功」と言うことを、「成績で5を取る」とするのではなく、「何か新しいことを知ること」と定義する。

<外国で行われたある実験の紹介>

○「良い成績だね、賢いね」という褒め言葉群の子ども（結果をほめられた子）

- ・難問易問(難しい問題と易しい問題)を選択させたら…7割の子が易問を選んだ。
- ・強制的に難問を与えたら…問題が解けないとすぐに挫折し、回答することを放棄した。
- ・自分の成績を自分よりもできの悪い人と比較しようとする傾向にあった。
- ・自分の点数を他人に教えるときに、実際の点数よりも高いスコアを伝えて虚勢を張る傾向が見られた。

○「良くやったね、頑張ったね」という褒め言葉群の子ども(プロセスをほめられた子)

- ・難問易問を選択させたら…9割以上の子が難しい問題を選んだ。
- ・強制的に難問を与えたら…熱心に解き続ける傾向→結果、成績20%向上した

何を価値づけるかでも、「やる気」に大きな影響が出るとのことでした。

今年の夏休みも子どもたちの「やる気」に期待しています。 (校長 後藤克巳)